



Amir Tsarfati

2020年2月21日「キリストの裁きの御座」

—キリストの裁きの御座とは何か—

ここにいらることができて、大変光栄です。私がよく聞かれることの1つは、「なぜ、それほど情熱をかけて終わりの時についてシェア（分かち合い）をするのですか？しかも、そのほとんどが携挙のような超自然的なことです」ええ、自然なことではありません。もしもし？私は、しばしば私たちが変えられるという、驚くべきことについて考えます。それも全く違うものに変えられて、そして、どこか他の場所へ行くのです。私が気づいたのは、あまり御霊に満たされていない人たちというのは、本当に地球上にあるものだけを求めています。彼らは上にあるものに関わりたくない。なぜなら、それらはあまりにも幻想的で、あまりにも素晴らしすぎて、真実には思えないから。地に足をつけようじゃないか。周りで起こっていることを見て、状況に対処しようじゃないか。わざわざ上まで行くんじゃない。さて、聖書は私たちに、正反対のことを教えています。まさに、その反対です。聖書は、コロサイ3章1節から2節で告げています。

こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら…（コロサイ3章1節）

それは肉体的な復活ではありません。それは、自分の罪過と罪との中に死んでいた私たちの霊の復活です。キリストが私たちに聖霊を与えてくださることで復活します。ですから、『もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら…』私たちがまだ生きている間に「キリストとともによみがえる」ということの意味を理解したいのなら、2章に戻ってください。私たちが罪の中でどのように死んでいたのか話しています。ということで、もしあなたがたがキリストとともによみがえらされたのなら…。つまり、私たちが、もはやそんなふうには生きていなければ、もし私たちが新しく生まれているなら、もし私たちが御霊に満たされているなら、もし私たちがイエスの信者なら、それなら「上にあるものを求めなさい」「もの」って何？私たちとイエスについて、彼がいる場所について。どこに座っておられますか？神の右。言い換えれば、私が主の御前に立つときに起こる事について考えても良いだけではなく、ここじゃなくて、あちらで。それは実際には戒めです。それは、あなたがキリスト共によみがえらされたことを証明する方法です。もしそうなら、あなたは上のものを求める必要があります。あなたは、あなたが彼のおられる所に移される瞬間について、考える必要があります。あなたは、はるか空中まで連れて行かれ、彼と一緒にいるのです。彼はここにおられません。彼は父の右手におられます。聖書は告げています。

あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。（コロサイ3章2節）

だから、それは実際に良いことです。それは実際に尊いことです。それは実際には、ある意味で、あなたの霊の状態を表す“しるし”です。それについて考え、それについて語り、それを研究すること。私たちがここから去ることを研究するのは、狂った行為ではないのです。私たちが空中で主に会うことについて。私たちが、主の御前に立つことについて。私たちが、主の驚くべき裁きの前に立つことについて。何のことを言っているんだ？キリストによる裁きの前に立つ？それを考えたいのか？そうですよ。それが今朝のこの教えの目的です。ところで、見上げるのは聖書的なものです。変な人ではありません。考えてみてください。ピリピ人への手紙は告げます。

キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているの

です。(ピリピ3章14節)

詩篇121編1節は言います。

私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。(詩篇121編1節から2節)

だから、私は頭を上げるのです。私は丘の方を見上げる。私の助けは丘の上に駐屯している軍隊から来るのではなく、私の助けは主から来ます。私は、私の周りで何が起きているのか、地球上のことだけを見るのは止めなければなりません。そして上を見上げるのです。聖書はまた、イザヤ40章26節で告げています。

目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方は、その万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって、呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つももれるものはない。

(イザヤ40章26節)

ダニエルは、バビロンの王ネブカデネザルについて書いています。

その期間が終わったとき、私、ネブカデネザルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻って来た。それで、私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は世々限りなく続く。(ダニエル4章34節)

ヨハネ11章41節。イエスご自身、受肉した神、私たちを救うために来られた神の御子が、彼がまだ地上におられる間、

そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。」(ヨハネ11章41節)

それは、霊的な人の自然な姿です。上を見て、上のことを考える。上にあるものを求める。使徒の働き1章10節で、弟子たちは彼らが地上でイエスを見ている間に、聖書は言います。

イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。(使徒の働き1章10節)

ほら、イエスは物理的に彼らに見上げ方を教えました。彼は上って行かれました。そしてイエスが上って行かれるとき、彼らの目は、こんなふうにならずと天を見つめていたのです。さて、もしあなたが、その瞬間から、イエスのことを考えていたのなら、もしあなたが彼の御前に立つこと、主と共にいることを考えていたのなら、それなら頭を上を上げて、見上げるべきです。

すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。(使徒の働き1章10節)

ヘブル人への手紙9章は、非常に興味深いことを教えています。ヘブル人への手紙9章は、避けられないものがある、と伝えています。まず第一に、皆さん全員が生まれました。もしもし？だから、あなたはここにいるのです。ここにいる皆さん全員が新生しているわけではないでしょう。しかし、皆さんの全員が生まれました。今ここに座っている人、ひとりひとりが生まれてきたのです。そして、生き物には有効期限があります。残念ながら、罪が世に入って以来、死が世に入りました。そして私たちは…。はい、アダムは900年生きたかもしれませんが。そしてそれは、ずっと下がって、ダビデ王の時には60歳未満になりました。ありがたいことに今は良くなりましたが、それでも、最長で120歳です。もしもし？

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている…。(ヘブル9章27節)

すべての人は、ある時点で神の御前に立たなければなりません。その時点であるかは、後に分かります。そして、裁判官である神の御前に立たなければなりません。そして裁きを受けなければなりません。聖書は告げます。

キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられました… (ヘブル9章28節)

イエスは来られ、そして多くの人の…、全員ではありません。罪を背負うために、ご自身をささげられました。彼はすべての人のために来られました。しかし、全員が彼を受け入れたわけではありません。ですから、彼は、彼を受け入れた多くの人の罪を負われたのです。そして、これを見てください。

二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

(ヘブル9章28節)

イエスは戻って来られ、現れます。英語で「現れる」という言葉は、特定の時間に現れます。私たちが主の御前に立つ。または、主が私たちの前に現れることについて、主が語られる時、これは再臨というよりも、教会の携挙です。再臨では、主は“現れ”ません。彼は白い馬に乗って来られ、そして、すべての膝はかがみ、全ての舌が告白します。そして、すべての目は東から西まで、主を見ます。それは“現れ”ではありません。それは、私たちが彼の御前にバーンと現れるとか、主が私たちの前にバーンと現れるというのではなく、別のものです。そして、

“二度目”は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

(ヘブル9章28節)

言い換えれば、イエスを信頼する人々には、私たちが彼と一緒にいる別の日があるのです。それは他の人のための日ではなく、私たちだけのための日です。そして、彼が語る救いは、あなたのたましいの救いではありません。それは、あなたのたましいの贖いではなく、ローマ8章が語る「この世からの体の贖い」です。興味深いことに裁きは避けられません。私たちはそれを理解しています。ヨブでさえ、それを知っていました。

あなたがたは剣を恐れよ。その剣は刑罰の憤りだから。これによって、あなたがたはさばきのあることを知るだろう。(ヨブ19章29節)

何であれ、その行い、発言、考えですら結果がともなうことを、誰もが知るべきです。きっと今、皆さんの中には震えている人がいるでしょう。「ああ、なんてこった。昨日、信号無視をしたよ」「ああ、どうしよう…」聞いてください。よく聞いて。「裁き」というと、非常に厳しい言葉のように聞こえます。特に、それが、あなたに関わると分かれば、なおさらのこと。しかし皆さんにお伝えしたいのは、主の教会に対する「キリストの裁きの御座」は、皆さんが考えていることとは全く異なります。そこで今朝は、8つの異なる質問にお答えします。「裁きの御座」とは何か? 「裁きの御座」は、どこにあるのか? 将来的な裁きは、いくつあるのか? 誰がそこに立つのか? どうやって、そこに行くのか? この裁きは、他の裁きとどう違うのか。それは、いつなのか。その目的は何か。ところで、私たちにとっては、さらに今日、これを勉強することの目的は何なのか? では、祈りましょう。

お父様。あなたのみことばに感謝します。あなたのみことばは真実です。今朝、あなたの真理によって、私たちをきよめてください。私たちに聞く耳を与え、見る目を与えてください。そして、今朝、私たちが学ぶべきことを理解する心をお与えください。御霊が言わんとすることを理解できますように。あなたの御名を祝福し、イエスの御名で祈ります。アーメン。

結局のところ、「裁きの御座」とは、何でしょう? 「裁きの御座」を覚えていてください。審判席は、「ペマ(裁きの座)」として知られ、その言葉は「裁判所」または「法廷」とも翻訳されます。これは、公開ま

たは非公開のどちらでも使われます。公開は、たぶん、願わくばここに座っている全員が、主の御前に立つ時です。ヨハネ19章は告げます。

それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を^{あなた}侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。(ローマ14章10節)

これは公開裁判です。しかし、もちろん、使徒の働き25章22節、イスラエルのカイサリアで、アグリッパがフェストに言っています。「私も、その男の話を聞きたいものです」(使徒25章22節)すなわち、パウロが証言するのです。「では、明日お聞きください」(使徒25章22節)これは非公開です。パウロが、フェスト、ペリクス、そしてもちろんヘロデ・アグリッパの前に1人で立っていた場所。それは非公開の「ベマ(裁きの御座)」。

ということで、「ベマ」とはヘブル人への手紙の言葉ではありません。「ベマ(裁きの御座)」は、もちろん天国にあるもので、ここではありません。今日でも、地球上に、いくつかの「ベマ」があります。これらはギリシャ人が世界に紹介した「ベマ」です。しかし、ローマ14章10節は告げます。

それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。(ローマ14章10節)

第2コリント5章10節は言います。

なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に“現れて”(第2コリント5章10節)

何に“現れ”るのですか?何の出来事ですか?「携挙」覚えていてください。私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、各自…「各自」と言ってください。

善であれ悪であれ、各自その肉体にあった行為に応じて、報いを受けることになるからです。

(第2コリント5章10節)

では、その節にギリシャ語を入れてみましょう。読めますか?ええ、皆さんが読めないのは知っていますが、皆さんが見るべき箇所の色をつけました。それが「ベマト・トゥー・クリストウ」です。



「ベマト」は「ベマ」です。キリストの「トウ・クリストウ」。だから、「キリストのベマ」、「キリストのベマの座」。すなわち「キリストの裁きの御座」。「ベマの座」が裁判所、または法廷である場合、つまり私たちは皆「ベマの座」の前に立たなければならないと言っているのです。「ベマ」は、それだけで「座」。それ自体で演壇のことを告げています。ところで、私はこの言葉を3つの異なる言語で示すことができます。「Bema」は、もちろん英語です。しかし、それからギリシャ語とヘブル人への手紙の「Bimah」または「Bema」があります。ところで、私はちょうどコリントの町から戻ったばかりで、私たちは古代コ

リントに行きました。1年前には、そこで撮影もしましたが、今回は、ずっと行きました。ご覧の通り、コリントのメインストリートは、この演壇で終わります。市の職員は、まさにその演壇で裁判を行っていたのです。それからズームして見ると、そこに書かれている文字が見えます。”BHMA/BEMA”「ベマの座」が、そこにありました。ですから、パウロがコリント人に手紙を書いたとき、「私たちはみな、キリストの“（ベマ）さばきの座”に現れて…」彼は言っているのです。「見なさい。あなたは、町の大御所、国の大御所である“ベマ”を見てきた。しかし私たち全員が…」コリントの町の住人ではなく、私たちです。「私たちには、別の“ベマ”の別の定めがあるのだ」それが「キリストのベマの座」です。ちなみに「ビマ」や「バマ」、ギリシャ人は、それを町の真ん中にある建物としてだけでなく、主に演劇の世界に属するものとして導入していました。海のそばのカイサリアの劇場をご覧ください。これは誤って“円形劇場”と呼ばれる建物です。



これは、誤って、“円形劇場”と呼ばれる建造物です。

もしもし？これを“円形劇場”という人は何人いますか。今、あなたは「そう言わないほうがよい」と思っているでしょう。なぜなら、明らかに話し手の口調から、それは間違っていますから。（笑）それは間違いです。なぜなら、この劇場はギリシャ語の「théatro」（セアトロン）から来ています。「théatro」とは、「私は観覧する」という意味です。「私は見ている」何を見ているのか？下の、あの演壇で行われていることを見ているのです。あそこの、半円の舗装の上にある、高い演壇が見えますか？さて、それも「ベマ」です。そして、その「ベマ」は、非常に高い確率で、パウロが立っていた場所です。彼がフェストとペリクスの前で証言をしたのが、まさにあの演壇。現代のヘブル人への手紙でも、「ベマ」という言葉が舞台を意味するのは興味深いことです。イスラエル国立劇場の名前は、「ハビマ」「ベマ」です。イスラエルの国立劇場です。光の加減で見えづらいますが、しかし写真が示しているのは、それがテルアビブの建物で、これが内部です。本当に美しい劇場で、「ベマ」と呼ばれています。彼らが、違う「ベマ」があることを知っていればいいのにはと思います。彼らは、もうひとつ計画されている方に立つのではなく、その裁きの前に立つべきです。ということで、これが、“ベマ”の意味です。コリントの町の「ベマ」と「キリストのベマ」の違いは、「キリストのベマ」は罰のためではなく、受賞のための審判であることです。これを覚えておかなければなりません。では、理解していきましょう。聖書によると、将来的に裁きはいくつありますか。ちなみにこれは、3番目の質問です。ともかく、地球上の全人類に用意されている3つの異なる裁きがあることを、お見せします。それは誰に対して、どこで？1つ目は、目前に迫っています。それはもちろん、いったん私たちが、ここからキリストの臨在に移されると、私たちは「キリストのベマの座」の前に立ちます。ローマ14章10節と第2コリント5章10節が告げています。しかし、もちろん聖書は告げています。イエスが戻って来ると、

すべての国民を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、（ヨエル3章2節）

彼は、全く違うものに従って、彼らを裁かれます。大患難を生き残る人は、千年王国に入るかどうかを、彼らがイスラエルの人々をどのように扱ったかによって決定されます。ヨエル3章1節から3節は、彼らがイスラエルと、その国土に対して行ったことに従って、神がすべての国々を裁かれる、と告げています。

見よ。わたしがユダとエルサレムの繁栄を元どおりにする、その日、その時、わたしはすべての国民を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで、彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。彼らはわたしの民をくじ引きにし、子どもを遊女のために与え、酒のために少女を売って飲んだ。(ヨエル3章1節から3節)

反ユダヤ主義は、千年王国に入ることは許されません。皆さん、理解してください。千年王国では、イスラエルは地球上で最も重要な国になります。ユダ族の獅子であるイエスが、全世界を支配します。彼はホワイトハウスには座りません。彼はエルサレムの神殿におられます。ですから皆さん、理解しなければなりません。反ユダヤ主義は、その期間、そこに住みたいとさえ思わないでしょう。あなたはユダヤ人の王を礼拝しなければならず、あなたは礼拝するために、イスラエルの首都エルサレムに来なければなりません。この千年の間、神が用意されていることを受け入れなければなりません。彼らがキリストの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたことに従って、羊とヤギが分けられます。つまりユダヤ人に対して。そして、もちろん千年王国の後、いったん神の義が千年間、示されると、人々は罪を犯す言い訳をいっさい持ちません。キリストが物理的にそこにいるので、キリストに従わない言い訳は、全くできません。サタンは、そこにいません。彼は千年の間、火の池に投げ込まれます。悪天候はなく、そして、その間、地球上に悪い動物はいません。すべてが、とてもすばらしいものになるのです。弁解の余地はありません。しかし千年王国の終わりに、サタンが短期間だけ解き放たれると、人々は再び試されます。そして、聖書は「大ぜいの人々がサタンに従う」と告げます。

聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。(黙示録20章9節)

ですから、ポイントは次の通りです。神の義が啓示されても、まだ人は罪深い性質で、そのとき、主はついに人類に対する最終的な裁きをもたらすのです。そして、それが「大いなる白い御座の裁き」です。そこで、私から皆さんに質問です。あなたは…、戻りましょう。あなたは天国の「ベマの座」の前に立って、褒美を受けたいですか？それとも、大患難の7年間を生き残りたいですか？それとも、大患難の最後によみがえりたいですか？そして、永遠の地獄に墮とされるのです。神の愛と神の存在から離れます。永遠の永遠に。あなたの裁きは、どちらですか。その答えは、今、あなたと共にあります。なぜなら彼に属する者だけが、その一員になるのですから。では、誰がそこに立つのか？もちろん、それは教会のみです。それは神の民です。主イエスを救い主として信頼する人々。それが行いによるのではなく、信仰によることを理解している人。2000年前に、イエスが完成したみわざによって、私たちは永遠のいのちを生きることを許され、そして、私たちは完全に罪と死の呪いから離れることができることを。ですから、これらの人々がキリストを救い主として信頼した瞬間から、ペンテコステの日から、キリストが教会のために来られる日まで、この人たち、それが教会です。もちろん、旧約聖書の信者は含まれていません。彼らは千年王国で私たちと共に統治するために、後に復活します。それは別の話です。私たちはキリストの花嫁です。そして、キリストの花嫁として、私たちはイエスの御前に立ち、その驚くべき裁きの時を持つのです。どうやって、そこに行くのか？さて、もし裁き、またはキリストの裁きの御座が天国にあるなら、イエスは御父の右におられますから、どうやって、そこへ行きますか？ジャンプしてみてください。今、皆さんやってみてください。がんばって！中には、最も致命的なハラペーニョ（メキシコの青唐辛子のこと）を試す人もいるかもしれませんが。そして、それで天国に行けるかどうか、試してみますか？ひとつ言えるのは、体が変わらない限り、重力の力を手放して、空中でキリストに会うことはできません。言い換えれば、教会の携拳だけが、教会の携拳の時に、私たちは即座にそこに行くことができるのです。そして裁きの御座の前に、主の御前に現れます。それがどのように起こるか、その全説明は、もちろん第1テサロニケ4章13節から14節です。聖書は言います。

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ【“ハルパゾ”】、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、い

つまでも主とともにいることになります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。(第1テサロニケ4章16節から18節)

というわけで、これが先に起こるべき事です。私たちがキリストの御前に立ち、そのことを体験するために。これは、私の素晴らしい芸術力で用意したイラストです。



ご覧の通り、私は信者を起立しているようには描きませんでした。聖書は、私たちに「勇敢に戦い、競争を走り抜け」と言います。私たちは、ただ突っ立って、受け身でいてはいけません。私たちは活動的であるべきです。私たちは何かをしなければなりません。さて、物事を行うことで信者になるのではありません。すみません。救われるのではありません。信頼し、信じることで救われるのです。しかしいったん救われると、次に質問が来ます。あなたは神があなたに与えてくださったもので何をしたか？神が与えられた才能で？神があなたに与えたお金で？神があなたに与えた時間で？これらのことをもって何をしたか？そして「キリストのベマの御座」の全ポイントは、それです。つまりポイントは「競争を走れ」。聖書は言います。

私たちは前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい (ヘブル12章1節から2節)

私たちが望んでいるのは、地球上のゴールではありません。我々のゴールは、地球上にはありません。私たちは、地球上で競争を走ります。しかし私たちのゴールは、天国にあります。私たちが神の子羊、ユダ族の獅子の御前に立つ時に、彼が実際に私たちに褒美ほうびを与えてくださるのです。罰ではなく。これは別の話です。あなたは、この一員になりたくないですか？もしも？「ああ、なりたいです」「でも、今はおなかがかすいているんだ」このさばきは、他の裁きとどのように違うのでしょうか。それはとても簡単です。まず第一に、私たちの行動が裁かれます。聖書は告げています。神は、信者の行動に報いてくださる。詩篇62編12節は告げています。

主よ。恵みも、あなたのものです。あなたは、そのしわざに応じて、人に報いられます。

(詩篇62編12節)

ほら、私たちは救われました。私たちは、そこに行きます。それは救いの問題ではなく、罪の赦しの問題でもありません。私たちは天国に行くのです！しかし次の裁きは、あなたは何をしたか？アクションです。人は自分のしたことに基づいて報酬を得ます。マタイ16章27節は告げています。

人の子は父の栄光を帯びて、御使いたちとともに、やがて来ようとしているのです。その時には、おのこの…。何ですか？その行いに応じて報いをします。 (マタイ16章27節)

そして聖書は、エペソ6章8節で言っています。

良いことを行えば、奴隷であっても自由人であっても、それぞれその報いを主から受けることをあなたがた

は知っています。(エペソ6章8節)

あなたの現在の状況は、何の意味もありません。あなたは奴隷かもしれないし、あなたは自由人かもしれませんが。言い換えれば、大事なものは、あなたの財政問題ではなく、あなたの社会的地位の問題でもありません。問題は、神様が、あなたにしてくださったことで、あなたは何をされたのかです。あなたの心の意図です。それがすべてです。私たちは、罪の裁きを受けるものではありません。それは確かです。誰が天国に入るかを決める裁きではありません。あなたはすでに天国にいます！信者の罪は、キリストの裁きの席では問題にはなりません。彼らは、すでに赦されている。だから、詩篇103編が言うのです。

私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、私たちの咎にしたがって私たちに報いることもない。天が地上はるかに高いように、御恵みは主を恐れる者の上に大きい。東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。(詩篇103編10節から12節)

ミカ7章19節が告げているように、罪は取り除かれました。

**もう一度、私たちをあわれみ、私たちの咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ入れてください
(ミカ7章19節)**

クリスチャンの運命は、すでに決着しています。これは、それについてではありません。あなたは、自分がどこに行くか知っています。問題は、あなたがそこに着いてからです。あなたは、主に何を言いますか？なぜなら、神は、すべてを記録しておられます。皆さんがご存じかどうか知りませんが。すべての思考、すべての言葉、すべての行動が記録されています。「ビッグ・ブラザー」(ジョージ・オーウェルの小説『1984年』)に登場する独裁者。全体主義国家オセアニアの絶対的存在で、全国民を監視している)が心配なんでしょう？グーグルとかアップルとか、そういうものを心配していますね？でもね、神が見ておられ、目にしておられることを心配した方がいいですよ。皆さんに、ひとつ言っておきます。十字架上のキリストの死で、クリスチャンの運命は、すでにハッキリと決定しています。非難はありません。ローマ書8章が告げています。

**こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。
(ローマ8章1節)**

だから、私たちの罪を非難するものではありません。その問題は、すでに十字架上で対処されています。地球上で。私たちは、すでに永遠のいのちを持っています。聖書のヨハネ5章24節に書かれています。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく死からいのちに移っているのです。(ヨハネ5章24節)

ほら、聖書は言っています。私たちが信じるなら、私たちは罪に定められない。信じない人は、すでに罪に定められている。

御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています。(ヨハネ3章18節)

その意味が分かりますか？それは、私たちは、生まれながらにして罪に定められているということです。私たちのいのちの中にある罪のために。しかし、私たちが信じることを選んだ瞬間、私たちは、ついに罪と負債、呪いを切り離したのです。私たちは、ついに非難、恥、そしてそのすべてを切り離した。そして私たちは、“非難されないチーム”に移りました。罪の呪い、その呪い。それは確かに呪いです。あなたには、それを取り除くことはできませんから。なぜなら、あなたが…。ダビデは詩篇51編で言っています。

罪ある者として母は私を身ごもりました。（詩篇51編5節）

あなたは、罪を持って生まれました。純粋な赤ん坊が、実際、あなたのことをどう思っているのかを示しています。彼らは、彼らに対するあなたの愛情の優しさや思いやりに同意しません。なぜなら、彼らはやりたいことを何でもしたいからです。反抗心は、私たちの中に組み込まれています。非常に幼い時から。しかし聖書は言います。

キリストは、私たちのために呪われたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてのろわれたものである」と書いてあるからです。

（ガラテヤ3章13節）

罪に対する代償は、すでに支払われているのです。だから、それは問題ではありません。
第1ペテロ2章24節。

そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。（第1ペテロ2章24節）

言い換えれば、彼は言っているのです。「わたしは、あなたに、新しいいのちを与えているのだ。義のために生きなさい」

キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。（第1ペテロ2章24節）

罪のささげ物は、すでに犠牲になり、ささげられました。第2コリント5章21節。

神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。（第2コリント5章21節）

それぞれの罪に対する信者のさばきは、遠い過去です。だから聖書は告げています。ヘブル人への手紙12章1節で、「競争を走れ」。また、第1テモテ6章12節で「勇敢に戦え」。だから、そういう種類の競技の描写では、私たちは、その種類の競技報酬を受け取ります。キリストの裁きの御座は、信者を罰するようには設計されていません。むしろ、彼らの忠実な奉仕に対して、彼らに報酬を与えるためです。私たちは皆、キリストを救い主として信頼した後に行ったことを説明します。ですから、キリストの裁きの御座は、救いの“後”の信者の働きに対する裁きです。なぜなら、行いによって救われるのではありませんから。信仰によって救われます。しかし、あなたが救われた後、あなたは何をしましたか？パウロはそのたとえを述べています。それは、第1コリントにあります。彼は、それを他でもなくコリントの人々に書いたのです。驚きです。肉だけを信頼した人々。肉だけを満たしたかった人たち。地球の歴史の中で、地球上で最大、最も墮落した場所のまっただ中に住んでいた人々。「筋肉増強剤を使用しているアムステルダム」彼らは、そこをそう呼びました。それが、以前のコリントでした。アフロディーテの大きな神殿が、世界中の人々を惹きつけていた場所。地峡の2つの異なる部分から。ローマに面したこの海から、そしてトルコに面したあの海から。彼らは、アフロディーテを崇拜するために来ているはずですが、しかし彼らが言わないのは、実際には娼婦と寝るのだということ。アフロディーテの神殿のすぐ外で。そして、お金はアフロディーテの神殿に入ります。だから、誰もが自分は高貴なことをしていると思っていたのです。何らかで神に仕えている、と。彼らがしているのは、ただ肉と肉体の欲望を満たすだけ。そして、コリントの人々にパウロは言います。

与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、“どのように”建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になりません。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で、各

人の働きの真価をためすからです。(第1コリント3章10、12、13節)

私たちがやったことのすべてが火を通り抜けるとは、驚きです。その後、どれほど残るのだろうか。聖書は言います。巨大な宮殿を建てた多くの人々が、彼らがキリストのためにしたことに基づいて、最終的にホームレスになる。彼らがすべての行いを正しい意図で行われなければ、完全になくなってしまいます。第1コリント3章15節。

もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。(第1コリント3章15節)

彼らは天国にいて、彼らは救われています。しかし、「火の中をくぐるようにして」その火は神の裁きですが、しかしそれは裁きだけではなく、神のご性質と神聖さの象徴でもあります。創世記19章の告げていることを見てください。

そのとき、主はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天の主のところから降らせ…。(創世記19章24節)

それは裁きでした。申命記では、

あなたの神、主は焼き尽くす火、ねたむ神だからである。(申命記4章24節)

しかし、その後、黙示録1章14節で、イエスの描写は、

その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。
(黙示録1章14節)

あなたは生きているかもしれませんが。あなたはイエスの前に立っているかもしれない。しかし、なんと、あなたは恥をかくかもしれません。信者は、御前でその恥はかきたくないものです。しかし第1ヨハネ2章28節で、彼は言います。

そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。(第1ヨハネ2章28節)

あなたの行いの源を、彼にするのです。あなたが努力するその目標を、彼にするのです。彼を、あなたの人生の原動力にしましょう。

なぜなら、それは、キリストが現れるとき…。(第1ヨハネ2章28節)

再び、「現れ」です。もしもし？携拳？あなたは御前に立つ…。

キリストが現れるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るということのないためです。(第1ヨハネ2章28節)

想像できますか？あなたは生きている間、ずっとイエスに来てほしくて、主が御座から来られます。彼は雲の上に降り立ち、私たちをずっと上まで連れて行ってくださる。そして、あなたが最高に幸せな代わりに、ものすごく恥ずかしい。イエスが来られるのを楽しみにしていなかった人たちは、とても恥ずかしい思いをします。彼らが忙しく勤^{いそ}しんでいたことで、彼らは恥をかくのです。完全な報酬がある、と聖書は第2ヨハネ1章8節で言います。

よく気をつけて、私たちの労苦の実をだいなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。

(第2ヨハネ1章8節)

「そして、その報酬を失わないように気をつけなさい」聖書は、彼らの報酬を失うことについて、信者に警告します。「失う」ということは、つまり、あなたは何かを行うが、しかし、それが火を通して試されたときに失われるということです。あなたは、それを失った。

黙示録3章11節。

わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。(黙示録3章11節)

この冠は、パウロがテモテに話したのと同じ、あの冠です。

今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。(第2テモテ4章8節)

今、わたしは描写がすごく下手くそで、実際、描写するのが本当に苦手です。皆、どうやって描写を思いつくのか、さっぱり分かりません。私はただ話し、聖句を伝えるだけで、もっとも退屈な教師です。どう描写すれば良いのかも、さっぱり分からなくて。だから私は、描写をオンラインで検索しました。そして、1つ見つけたのです。救われていながら、しかし失うということの凶。その描写は、こうです。たとえば、最近あなたは新しい2階建ての家を建てました。あなたが2階にいる間、煙の臭いがしてきて、階下を見ると、1階が燃えているのが分かります。あなたは2階の窓から飛び出して、いのちを守ります。そして、あなたは、あなたの新しい家が全焼して崩れるのを見ます。明らかに、あなたは複雑な感情を持つことになります。なぜなら、あなたは飛び出して、命を救えたことに感謝します。しかし、あなたの新しい家が崩壊したので、あなたは悲しい。これは、救われてはいるが、しかし、そのために示すものが何もない信者に似ています。彼らはキリストのために生きる機会をムダにしましたが、しかし彼らは、イエスと共に天の恩恵を享受しています。あなたは名誉ある地位がほしい。キリストの裁きの御座を経験するすべての人は、特権と神の子としての誉れを現します。聖書はマタイ10章32節で告げています。

ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。(マタイ10章32節)

贈り物を受け取るのです。パウロはこれをコリントの人に書き、彼は言っています。

目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。(第1コリント2章9節)

神は、これを御霊によって私たちに啓示されたのです。

御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。(第1コリント2章9節から10節)

ところで、私たちが報酬を受け取るとき、それは、私たちが、この人生で示す忠実さに比例します。カギは、神がくださった賜物に対する忠実さです。第1コリント4章2節。見てください。どれほどのことが…。そのすべてがコリント人たち、コリントの人々に書かれたのです。物質的なことだけを考えていた人たち。この地上での祝福を見ることだけを考えていた人たち。もしあなたがお金持ちなら、有名なら、超、超、超トレンディなら。あなたが持っていることを、だれもが分かるなら、見てください。コリントの人々に彼は言っています。

この場合、管理者には、忠実であることが要求されます。(第1コリント4章2節)

報酬には、異なるランクがあるのです。もちろん、ルカ19章、たとえの中で主は言われました。

主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』二番目の者が来て言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、五ミナをもうけました。』主人はこの者にも言った。『あなたも五つの町を治めなさい。』（ルカ19章17節から19節）

ふたりとも主人に会います。ふたりとも主人の前にいます。ただし、1人は10の町、もうひとは5つの町を支配します。それはすべて、彼らの忠実さの程度に従っています。そして対象は、主が彼らに残されたもので何を行ったかです。冠。パウロがテモテに言ったことを思いだしてください。「私は勇敢に戦い…」私の人生は活発でした。私は家に座っていなかった。私はそこで勇敢に戦っていた。「走るべき道のりを走り終え」彼はすでに人生の終わりを見えていました。これは、携拳が彼の生涯で起こると確信していた、同じパウロです。そして、彼はすでに人生の終わりが見えていました。しかし、彼は悲しんでいない。「あ～あ、携拳は私が生きている内に起こらないかもしれない。がっかりだ」いいえ！彼にはゴールが見えていたのです。彼は、すでにその冠を受け取ろうとしているのが見えていたのです。彼は、すでにその冠を受け取ろうとしているのが見えていたのです。「信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです」彼もとても現実的です。彼は理解しているのです。「それが私のために用意されている」「今は受け取らない」「みんながそこに行くまで待たなくてはならない」誰が？あの義の栄冠を「正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです」いつ？「かの日には」私たちみんなが、そこに行く日。

私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。

(第2テモテ4章7節から8節)

熱心に彼の現れを待つ、すべての人。だから、あなたは彼の現れを待つ必要があります。熱心に待たなければなりません。あなたは、彼の現れを待ち焦がれなければなりません。つまり、準備ができていなければなりません。それが、あなたが冠を得るときです。その時、あなたは冠をキープ（保持）できるのです。そのとき、あなたはイエスの足元に冠をお返しできるのです。黙示録の中で、24人の長老が彼の足元に置いたように。さて皆さん、理解する必要があります。私たちが生まれたとき…、聖書は言います。私たちの日数が数えられている。しかしまた、私たちの名前が、“いのちの書”に書かれた。いのちの書とは、生まれたすべての人が、いのちの書に書かれているのです。なぜなら、その人にはいのちがあるから。もしも？いのち？あなたのいのち？あなたは、明らかにいのちの書に書かれています。しかし、イエスに信仰を置くなれば、その後、あなたの名前は“小羊のいのちの書”に書かれています。血潮で。それは消去することはできません。どうしてそんなことを言うのか？ええ。大きな熱意をありがとうございます。でも、聞いてください。バリーさんが言うように、「ありがとう、おふたりさん」まあ、聞いてください。それは、こんな感じですか。名前は、いのちの書から消すことができます。あなたが死んだ瞬間、死が、あなたを支配しています。なぜなら、あなたは信者ではないから。あなたが信者であれば、死は、もはやあなたを支配しません。生きることは？何ですか？死ぬことは？（益です。）そうです。死は棘を失った。ふむ。しかし私たちが信者でないなら、死が訪れた瞬間、あなたの名前がいのちの書から削除されたことを意味します。ところで、非常に簡単です。シュツシュツシュツ…、消去。聖書は、黙示録3章4節から5節で告げています。彼は、「勝利を得た者がいる」と言われます。しかし、彼の言われることを見てください。

勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは消してしない。わたしは、彼の名を、わたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。

(黙示録3章5節)

もちろん、それはいつでしょうか？携拳の直後。私たちがここから出た瞬間。私たちがキリストの御前に立つ瞬間…。それは、キリストの地上再臨の前です。私たちは、天国でミーティングがあるのです。私たちは7年間、天国でイエスと一緒にいるのです。私たちは、彼が私たちのために準備してくださった珍しいものや大邸宅をチェックしなければなりません。つまり、2000年もの間、彼は私たちのために大邸宅を建てて

くださっているのです。数秒間ではありません。携挙が大患難の終わりに起こると信じている人のように？まるで、「シューッ」と上がって、彼は私たちと一緒にバーンと戻って来る、みたいに。もしもし？2000年の工事を経て、そこに住みたくないですか？聞いてください。黙示録の中で、私たちは言われています。

花嫁は、正しい行いを着ている。(黙示録19章8節)

したがって、教会はすでにキリストの裁きの御座にいました。なぜなら、彼らは花嫁が来られるときに、彼のための準備ができてから。したがって、裁きはキリストの再臨の前に行われます。私たちが取り上げられ、教会の携挙の直後に、私たちが彼と一緒にそこにいる間に。
黙示録19章。

私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。
(黙示録19章7節から8節)

では、すべてを要約してみましょう。第1に、主は教会時代に死んだ聖徒の体を復活させます。そして、彼らの体も、そしてまだ生きている者の体も、すべてが変えられます。ですから、死んでいても生きていても、誰もが変わります。その後、私たちは空中で主に会い、キリストの裁きの御座に進みます。この裁きは、忠実な働きに対する報酬です。誰に対しても非難はありません。報酬は、主に対する忠実な働きに基づいて信者に与えられる冠です。そして報酬は、私たちの忠実さに比例します。最後は次の通りです。

「キリストの“ベマの御座”」の目的は何か？実際、「キリストのベマの御座」について勉強する目的は何なのか？ひとつ言うと、私はメッセージを勉強するたびに、自分自身に問うのです。その目的は何か？たとえば、私が千年王国のメッセージを勉強したときに、私は神に尋ねました。「すみません。要点が分かりません。なぜ私は天国のあの美しい邸宅で、あなたと一緒に時間を過ごすのですか？そしてなぜ、私を地上に戻すのですか？しかも、どれくらい？千年もの間！！」私は反対です。私はそれに抗議します。しかし、その後、彼は私に目的を示してくださいました。ところで、ここでの目的は非常に簡単です。天国の「ベマの御座」が何であるかを、今日、知ることによって。私たちは信者として、地上で忠実な生活を送るようになるのです。あなたは御前に立つのだ、と言うこと。そして、そのすべての目的を理解すると、「ああ、なんてこと！」と感じます。「私は、私のために残されている非常に少ない時間で、キリストのために生きたい。そして、忠実なしもべになりたい」なぜなら、この地上での不誠実さの最大の結果は、キリストを失望させるからです。なんと悲しいことか。第1ヨハネ2章28節。

そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現れるとき…

(第1ヨハネ2章28節)

【携挙】

私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るといふことのないためです。

(第1ヨハネ2章28節)

これは、確かにまともな考え方です。私たちは、主の前に立つときに、恥をかく可能性もあるのです。同時に、彼から豪華な褒美を受け取ることが、私たちにとって励みになるはずですが、もし、この地上にいる間に忠実に主に仕えるならば。この人生での罪と無関心が、私たちの、主に仕えたいという現在の願望を奪ってしまうことを思い出さなければなりません。そして、その見返りに褒美を失うことを意味します。なぜなら、私たちが彼の栄光のために時間を使わなかったから。エペソ5章15節から16節。

そういうわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。(エペソ5章15節から16節)

罪と無関心はまた、私たちの生活の中で、パワーの損失をもたらします。罪は聖霊を悲しませますから。罪と無関心のせいで奉仕の機会を逃します。その反対のことをすれば、その時は？その報酬を受ける。ほら、私たちの生活の中で、「これまでだ」「これで終わりだ」我々は、競争を走らなければなりません。競争を走るだけじゃなくて…。あなたが競技に現れるときに、あなたはタイツや何かを着て、ドレスアップしますか？あなたが現れ、その後、スタートの銃声が聞こえます。みんな走っているのに、あなたは、ただ歩いている。そんなふうに競争を走りません。ちなみに、たとえ走ったとしても、こんなふうに走ることも可能です。それはまた、競争を走るとは言えません。聖書は言います。私たちは勝つために競争を走らなければならない！その賞を受け取るために走るのです！しかし、私たちの賞は、ただの朽ちる冠ではありません。それは朽ちないものです。だから、私たちは勝つために走らなくてはならない。信者は、神を喜ばせたいと熱望し、聖霊に満たされて活動しなければなりません。何をすることも主に対してするように、心から行う。第1コリント9章24節から25節。

競技で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは、朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは、朽ちない冠を受けるためにそうするのです。（第1コリント9章24節から25節）

コロサイ人への手紙3章23節から24節。

何をすることも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい。あなたがたは、主から報いとして、御国を相続させていただくことを知っています。あなたがたは、主キリストに仕えているのです。（コロサイ3章23節から24節）

ローマ12章1節。

そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみゆえに、あなたがたにお願いします。

（ローマ12章1節）

神のあわれみにより、あなたがたは、ただ何もせずに座っているようなことはせず、あなたがたは、ただ人生を歩むだけでなく、あなたがたは水面下に潜^{もぐ}って、ムダに人生をやり過ごしません。あなたがたは、火をくぐり抜けて救われるのではなく、

あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。（ローマ12章1節）

お父様、あなたの御言葉をありがとうございます。キリストを通して、私たちはもはや非難されないことを、父に感謝します。罪に問われることはありません。死は、もはや私たちを支配しません。私たちには、もはや律法から来る死と罪の呪いはありません。私たちは自由です。しかし、お父様、あなたが義のために生きる自由を私たちに与えてくださったのです。私たちがまだここにいる間、すべての時が数えられています。私たちは、その時間を賢明なかたちで用いなければなりません。お父様、あなたに感謝します。私たちに残された時間が、あと10分であろうと、1時間、1ヶ月、1日、1週間、1年、もしかすると10年だったとしても、今日から、主に全力を尽くします。私たちが、その素晴らしい賞を受け取れるように。そして、主の来臨の時に恥じないように。そして、喜んでその冠を、その賞を受け取り、イエスの足元に置くことができますように。あなたに感謝し、今朝、あなたを祝福します。

イスラエルの聖なる方の御名のもとにお祈りします。神の子羊、平和の君、ユダ族の獅子、インマヌエル。イエシュアの御名、私たちの救い、イエスの御名によって私たちは祈ります。神の人々すべてが言います。

アーメン

アーメン



← スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.02.26 (Wed)